

「.日本」と「.JP」との関連付けのメリット・デメリット

		JP既登録者	JP未登録者	インターネット利用者	指定事業者	JPRS(レジストリ)	備考	
関連付けしない	メリット	・選択の幅が広がる	・選択の幅が広がる ・「〇〇.JP」を登録できなかった組織/人にも「〇〇.日本」の登録機会が与えられる	—	・扱うドメイン名(商品)が増えビジネスが広がる可能性がある	・別サービスとしての収入源が増える	・JPRS以外がレジストリとなればレジストリ間のサービス競争が進む	
	デメリット	・「〇〇.JP」を登録していても、「〇〇.日本」を他人に登録される可能性がある(両方欲しくても、登録できる保証はない) ・「〇〇.JP」と「〇〇.日本」の両方が欲しいとき、登録するための手間がかかる	・「〇〇.JP」と「〇〇.日本」両方欲しくても、登録できる保証はない ・「〇〇.JP」と「〇〇.日本」の両方が欲しいとき、登録するための手間がかかる	・「〇〇.JP」と「〇〇.日本」は同じ登録者であると誤認し、それに伴う混乱が生じる可能性がある	・「.JP」と「.日本」は別物であることを十分説明・周知し混乱を防ぐ必要がある	・「.JP」と「.日本」は別物であることを十分説明・周知し混乱を防ぐ必要がある		
関連付けする	登録者のみ	メリット	・「〇〇.JP」と「〇〇.日本」の登録者のブランド「〇〇」が希釈されずに済む ・「〇〇.JP」登録者は、「〇〇.日本」を保護のためにブロックする必要がない ・「〇〇.日本」と「〇〇.JP」を使い分けることも、同じページ/メール送信先とすることも可能	—	・登録者が同じであることで、混乱なく安心して利用できる	・わかりやすいサービスであり、登録者/利用者に理解されやすい	・「〇〇.JP」に付加価値がつき、JPDメイン名の価値が向上する ・登録者/利用者/指定事業者にとってわかりやすいサービスとなる	・JPRS以外がレジストリとなれば、「.JP」と「.日本」を関連付けるためのシステムをJPRS、他レジストリ、指定事業者等が開発せねばならない
		デメリット	—	・「〇〇.JP」が登録されている場合、「〇〇.日本」を登録するチャンスがなくなる	・「.JP」と「.日本」で、同じWebページ/メール送信先になるとは限らないため、混乱が生じる可能性がある	—		
	メリット	・Webページ/メールアドレスを安心して使ってもらえる ・「〇〇.JP」と「〇〇.日本」両方の登録手続きを行なう必要がない	—	・「.日本」は「.JP」の単なる読み替えであると認識でき、安心して利用できる	・わかりやすいサービスであり、登録者/利用者に理解されやすい	・「〇〇.JP」に付加価値がつき、JPDメイン名の価値が向上する ・登録者/利用者/指定事業者にとって非常にわかりやすいサービスとなる		
	Web/メールも	デメリット	・「〇〇.日本」と「〇〇.JP」を使い分けたい、もしくはどちらかだけを使いたい登録者にとっては、自由度がない ・Webページ/メール受信先を完全に同じものにするためのシステムの設定が簡単でない	・「〇〇.JP」が登録されている場合、「〇〇.日本」を登録するチャンスがなくなる	・Webページ/メール受信先を完全に同じものにするためのシステムの設定が簡単でない	・Webページ/メール受信先を完全に同じものにするためのシステムの設定が簡単でないため、顧客サポートが大変	・登録者のドメイン名の使い方に対してレジストリが枠をはめることになる ・レジストリだけでは、Webページ/メール受信先を完全に同じにするというサービスはできない ・ドメイン名毎に、レジストリ、指定事業者、ISP、Webホスティング事業者、登録者が整合の取れたシステムの設定をしなければWebページ/メール受信先を完全に同じものにできない	